

Shusuke Nishikawa Viola Recital

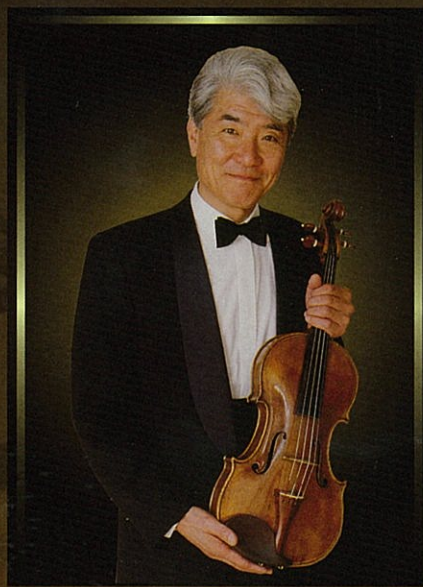
西川修助ヴィオラリサイタル

Piano: Shinya Okahara

ピアノ：岡原慎也

<ロシアの魂、光と影>

- スクリャーピン : 5つの前奏曲 作品 74
Alexander Scriabin *5 Préludes for viola and piano op. 74*
- ストラヴィンスキー : エレジー (ヴィオラ・ソロ)
Igor Stravinsky *Élégie for viola solo*
- プロコフィエフ : ヴィオラとピアノのためのソナタ
作品 119
Sergei Prokofiev *Sonata for viola and piano op. 119*
- ショスタコーヴィチ : ヴィオラとピアノのためのソナタ
作品 147
Shostakovich *Sonata for viola and piano op. 147*



2012年5月16日(水)

18:30 開場 19:00 開演

東京文化会館小ホール

全席自由：一般 ¥4,000 学生 ¥2,500 (税込)

チケット発売日：2012年1月12日(木)

お問合せ：カメラータ・トウキョウ 03-5790-5560
<http://www.camerata.co.jp>

チケット取扱

- カメラータ・トウキョウ 03-5790-5560
- 東京文化会館チケットサービス 03-5685-0650
- チケットぴあ 0570-02-9999
(Pコード：**159-619**)
- e+ <http://eplus.jp>

マネジメント：カメラータ・トウキョウ 後援：日本ドイツリート協会

西川修助 ヴィオラ *Shusuke Nishikawa, Viola*



東京藝術大学附属音楽高校を経て東京藝術大学音楽学部器楽科入学。在学中、江藤俊哉氏の推薦によりアメリカ・インディアナ大学に留学、ウィリアム・プリムローズに師事。その後ピーバディ音楽院（現ジョン・ホプキンス大学音楽学部）に入学。ウォルター・トランブラーに師事。在学中、ピーバディ音楽院合奏団国務省派遣、プエルトリコ演奏旅行にヒンデミット“葬送の歌”の独奏者として参加。その後トランブラー氏の推薦により、ニューヨーク・ジュリアード音楽院に転入。在学中にレオポルド・ストコフスキーのアメリカ交響楽団に入団、首席奏者に就任。1973年、帰国後、東京交響楽団首席奏者、札幌交響楽団首席奏者を歴任。秋山和慶指揮東京交響楽団でモーツァルトの“協奏交響曲”、ズデニック・コシュラー指揮札幌交響楽団でバルトークの“ヴィオラ協奏曲”、岩城宏之指揮同オーケストラでベルリオーズの交響曲“イタリアのハロルド”、各定期演奏会の独奏者として出演。フィンランド、シベリウス三重奏団の日本ツアーに参加。ブラームス“ピアノ四重奏曲”を共演。またゲイリー・カーとディッターズドルフの“協奏交響曲”を協演。その間、NHK-FM“午後のリサイタル”にたびたび出演。東京、大阪にてソロ及び室内楽リサイタルを定期的に開催。また、サンクバーバラ音楽祭、グランドティートン音楽祭、カメルバッハ音楽祭、フィンランド、クモフ室内音楽祭、草津国際音楽祭などに参加。現在、大阪音楽大学大学院非常勤講師、西川修助室内楽サロン主宰。

岡原慎也 ピアノ *Shinya Okahara, Piano*



4才よりピアノを始める。全日本学生音楽コンクール中学生の部全国第一位。東京藝術大学音楽学部付属高校を経て東京藝術大学に入学、在学中より演奏活動始める。同大学卒業後、ドイツに留学。ベルリン芸術大学、ミュンヘン音楽大学マスタークラスにおいて研鑽を積み、FM放送に出演等、ドイツ各地で演奏をする。帰国後、ベートーベンのピアノソナタ全曲演奏や各地でのリサイタル、コンチェルト等で高評を博す一方、シューベルトやヴォルフの歌曲の全曲演奏など、ドイツ歌曲や室内楽のパートナーとしても精力的な活動を展開し、1994年にはヘルマン・プライ、そして95年にはテオ・アダムと共演を果たし、NHK芸術劇場で放映される。1996年にはディートリヒ・ヘンツェルの初来日公演を自らプロデュースし、翌97年のシューベルトイヤー、99年のR.シュトラウスイヤーの全国ツアーを成功させる。その活動は国内のみにとどまらず、チェスキー・クルムロフ音楽祭、リヒャルト・シュトラウス音楽祭、そしてグラン・カナリア音楽祭などに招待され、ソリスト、歌曲のパートナー、室内楽奏者として幅広く活動している。また、2006年春にはチェコにおいて指揮者としてもデビューを果たし、ウィーンフィルの主力メンバーからなるシュトイデ・カルテットとザルツブルグ、ウィーン、大阪でのツアーも成功させる。また、ヘンツェル、同じくバリトンのシュテファン・ゲンツ、チェコのマルティヌー・カルテットなど、国内外で共演を重ねる海外アーティストも多い。ヘンツェル、ヘルムート・ドイチュらと隔年で開催する「ドイツ歌曲解釈の夏期講習」は5回を数え、多くの若い音楽家たちが巣立っている。1993年京都音楽賞、96年大阪文化祭賞本賞、そして2001年には音楽クリティッククラブ賞を受賞。またこれまでに20枚以上のCDがリリースされている。現在、大阪音楽大学大学院ピアノ研究室主任教授。日本ドイツリート協会会長